

3 笠塔婆について

後田遺跡のSD3において、多量の笠塔婆が出土したことは前述のとおりであるが、「笠塔婆」については未だ不明の点が多いため、県内及び全国各地の出土例をもとに出土遺構・用途・時期等について若干の考察を試みたい。

笠塔婆のような信仰に関する墨書き木製品には、主に柿経と塔婆類が認められる。これらの分類については『日本仏教民俗基礎資料集成』において、経文を墨書きしたものを柿経、真言・名号・偈文等比較的単純な内容のものを書写しているものを笠塔婆としている。さらに、「文献史料の上では、「柿葉」「卒都婆」「卒都婆経」「経木」等と書かれているが、「卒都婆」と呼称している例が最も多い。ただし、文献の場合には、七十七日や四十九院の塔婆をも卒都婆と呼びならわしているため、これを識別するには史料の文意による以外方法はない。」とつけ加えている(3)。これを示唆するかのように、各地の出土報告を見ても統一された名称はなく、塔婆・卒塔婆・板塔婆・呪符・木札等と呼ばれているのが現状である。したがって、今回は名称にこだわらず、五輪塔婆も含めて、真言・名号・偈文等を書写している木製品を表7に取り上げる。なお、県内においては、出土例が少ないため柿経の出土例も参考として表5に取り挙げたが、表7においては、明らかに柿経と思われるものは除いた。

表-5 山形県内の出土例

遺跡名	山寺(山内)	安 田	明 成 寺	亀ヶ崎城	月 記
所在地	山形市山寺立石寺	酒田市大字安田字芳岡	酒田市豊川字明成寺	酒田市亀ヶ崎	鶴岡市大字寺田字月記
調査年	1950	1981	1979	1994	1990
遺跡の種別	寺	集落跡	集落跡	城館跡	集落跡
出土した遺構	ホトケ岩洞窟	5-21G II	SX2落ち込み	SD1溝跡	SD3溝跡
遺 物 及 び 計測値 (mm)	柿経 3万点 240×20×1 笠塔婆 数点 416×34×5 678×38×8	柿経 2点 87×11×0.3 102×10×0.9	笠塔婆 3点 (柿経カ) 187×14×1 177×13×1 161×15×1	位牌 1点 167×40×3	墨書き護符 3点 214×26×2 264×36×2 113×18×3
墨 書	南無大日如来 パン 南無阿弥陀仏	「妙法蓮華経」の経文の一部	主成獻如是得嚴 他	バク法□□相□ カ	阿弥陀如來 他
時 期	室町後半～近世	鎌倉～室町	鎌倉～江戸	17～19C	中世

①県内の出土例(表5)

県内では、笠塔婆・柿経の出土例は5例である。月記遺跡は後田遺跡と一連の遺跡であることは前述しているので、この他に笠塔婆に相当するものは山寺ホトケ岩洞窟と亀ヶ崎城跡の2例である。前者は、多量の柿経と笠塔婆が発見されたことにより、石田茂作氏が調査を行っており、現在も山寺秘宝館において展示されている。若干大きめではあるが、後田出土笠塔婆に似た様相を呈する(1)(2)。また、亀ヶ崎城跡出土位牌は、上部を圭頭にし、墨で二条の線が引かれている。墨書の内容やその形態は笠塔婆に分類されるものと考えられる(28)。なお、今回は明成寺遺跡出土笠塔婆は柿経に分類する。

②全国の主な出土例(表 6)

全国においては51例を今回取り上げたが、その殆どは1～10点程とわずかな出土である。中には百点、千点以上の出土例も認められるが、元興寺極楽坊より発見された 笹塔婆の数が最も多く、よく集成されているものと言えよう。また、各地域の分布状況は、東北9遺跡、関東3遺跡、北陸・東海8遺跡、近畿18遺跡、山陽・山陰5遺跡、九州2遺跡となる。発掘件数にも左右されると考えられるが、近畿地方に3分の1以上が分布し、次いで東北、東海地方に多く分布している。

表-6 各地出土筭塔婆時期分布表

③ 笹塔婆の用途について

笹塔婆の用途については、不明の点が多く未だ断定はできないが、『日本仏教民俗基礎資料集成六』において「笹塔婆は、己の生善を願う逆修のためのものもあるが、「為某菩提也」と記したものや、日課作善のものにも「為某」としてその命日に当たると推定される日には数本の笹塔婆を余計に作っており、亡者追善の資料が以外に多い。」と記している。これは、現在も死者の供養のため回忌毎に墓に建てられる卒塔婆と同じ様なものと言える。また、「餓鬼草子」の中の石積塚の図には、供養塔を中心にして両脇に卒塔婆を建て、さらにその周りには無数の小さい卒塔婆が建てられている(25)。

後田遺跡の南西方約2kmに位置する森山においては、現在でも毎年8月に大施餓鬼供養が行われており、周辺各地から参詣者が訪れる。この時供養に使用する塔婆は長さ305mm、幅49mm、厚さ1mmを測る、下端は尖らせていないが上端を五輪塔状にした笹塔婆によく似た形状を呈するものである。しかし、森供養の初現は残念ながら近世に入ってからという事で、後田遺跡の笹塔婆に直接結びつけることはできない(12)。

現在出土している笹塔婆の用途は必ずしも断定できないが、供養塔としてだけでも様々な使用方を想定することができる。

さて、上記のような方法によって供養塔として使用されたとするならば、寺院跡・墓跡からの出土が多いと考えられるが、各地の笹塔婆の出土遺跡の種別を概観すると、集落跡17例、寺院跡及び墓跡11例、城館跡6例その他18例となる。宮城県瑞巖寺境内出土の154点、和歌山県野田地区遺跡の数百点、栃木県法界寺跡の2000点等、寺院跡からの出土量は確かに多いが、遺跡数としては少なく、集落跡や城館跡等からもかなりの数が出土している。これは、寺院跡からの流れ込みを考えるよりは、一般集落においても使用されていたことを示すものと考えられる。また出土遺構については、一遺跡にいくつかの遺構が認められる場合もあるが、溝跡18例、河川跡13例、井戸跡6例、土坑5例、池跡3例等となり、溝跡・河川跡がほぼ半数を占める。木製品という性質上、これらの遺構が多いことは当然のことであるが、供養方法に何らかの関係があるのでなかろうか。

表7中に認められる、長さが50~100cm、幅が5~10cmを測る塔婆は、墓に建てて使用したと考え大過ないと思われる。しかし、後田遺跡出土笹塔婆のように長さ30cm程、厚さ3mm程の壊れ易い木製品を同様に使用することは難しいと考えられる。『平家物語』には、鬼界ヶ島に流された康頼入道が故郷を思い、千本の卒塔婆を海に流したという「卒塔婆流」が記されている(24)。死者の供養とは若干意図が異なるが、笹塔婆も溝や河川等に流して供養を行った可能性も考えられる。かなり時期は遡るが、律令期には、河川際などで祭祀を行ったことは文献にも記されており、そのような状態を想定できる遺跡の確認も年々増加している。中世に入ると、律令期のような斉串の出土は減少し、柿経・笹塔婆等仏教に関連するものが増えてくるが、これらも同様に溝や河川に流すことによって供養を行ったという推定も可能なのではないだろうか。

では、後田遺跡についてはどうであろうか。唯一墓壙と考えられるSK23は平安時代の遺構と考えられ、中世に相当する墓壙は検出されなかった。出土した笹塔婆は、その殆どが下端を

尖らせているが、土中に刺したような痕跡は認められない。また、下端に朱塗りを施したものも認められることから、下端も見えることを意識して作っているように思われる。以上のことを考え合わせると、墓等に立てる供養塔というよりは、SD3溝跡に笹塔婆を流すことによって供養を行ったと推定される。

④ 笹塔婆の年代について

柿経の場合は、平安末から鎌倉時代に流行した仏教の行為であると考えられているが、笹塔婆の場合もほぼ同様であるように思われる。溝や河川からの出土がその殆どを占めるため、はつきりとした年代を決定することは困難であるが、表6をみると、若干の例外は認められるものの、12世紀を初現とし、13～16世紀までが最も多く認められる。その後、近世には大阪城や西大寺等で若干出土しているものの、明らかに減少していく様子が認められる。

また、出現期にあたる12世紀代には京都府鳥羽離宮跡や岩手県の柳之御所跡等公の施設跡からの出土が目立つが、13世紀以降は集落跡・寺院跡に多く認められるようになる。このことから、平安末に上層階級の人々によって行われていた供養方法が、中世に入るとともに一般庶民へと浸透していくことを想定することができる。

後田遺跡においては、SD3溝跡より古墳時代から近世という幅広い時期の遺物が確認されているが、珠洲系陶器・青磁・かわらけ等の中世陶磁器がかなり目立っていたため、これらの年代観より12世紀末～14世紀という時期を設定した。これは、上記の笹塔婆の年代にも共通するものであり、ほぼ妥当な時期と考えられる。

以上、笹塔婆について若干の考察を試みたが、なお、宗教上の問題や地域的な偏り等不明の点が多く、今後の検討課題としていきたい。

参考文献

- (1) 佐藤 栄太 1950 「山寺の経塚についての一考察」(『羽陽文化』第7号)
- (2) 石田 茂作 1951 「修驗道と東北文化及び山寺の笹塔婆」(『羽陽文化』12号)
- (3) 辻村 泰圓 1978 「日本仏教民俗基礎資料集成六」(元興寺極楽坊VI)
- (4) 今里 英三 1979 「日本仏教民俗基礎資料集成三」(元興寺極楽坊II)
- (5) 大友 義助 1977 「山寺岩陰出土庶民信仰資料について」(『庄内考古学』14号)
- (6) 木簡学会 1980～『木簡研究』1～3、5～17号
- (7) 川崎 利夫 1980 「若王寺遺跡・明成寺遺跡・三田遺跡発掘調査報告書」
野尻 侃 他 山形県埋蔵文化財調査報告書第32集 山形県教育委員会
- (8) 佐藤 庄一 1982 「安田遺跡発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財調査報告書第56集 山形県教育委員会
- (9) 徳山 哲純 1983 「梵字手帖」
- (10) 篠原 芳秀 1985 「草戸千軒町遺跡出土の草履状木製品」(『草戸千軒』139号)
- (11) 田島 明人 1986 「漆町遺跡I」 石川県埋蔵文化財センター
- (12) 春日 儀夫 1986 「目で見るモリの山」
- (13) 阿部 明彦 1988 「矢馳A遺跡・矢馳B遺跡・清水新田遺跡発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財調査報告書第127集 山形県教育委員会
- (14) 佐藤 庄一 1989 「6後田遺跡」(『分布調査報告書16』山形県埋蔵文化財調査報告書第136集 山形県教育委員会)
- (15) 阿部 明彦 1989 「12大道下遺跡」()
- (16) 渋谷 孝雄 1990 「6後田遺跡」(『分布調査報告書16』山形県埋蔵文化財調査報告書第148集 山形県教育委員会)
- (17) 野尻 侃 1990 「7月記遺跡」()
- (18) 佐藤 庄一 1990 「8大道下遺跡」()
- (19) 野尻 侃 1990 「大道下・月記・大東遺跡発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財調査報告書第153集 山形県教育委員会
- (20) 佐々木洋治 1991 「2後田遺跡 3大道下遺跡」(『分布調査報告書16』山形県埋蔵文化財調査報告書第163集 山形県教育委員会)
- (21) 井上喜久男 1992 「尾張陶磁」
- (22) 繼 実 1992 「鎌倉市内の井戸」(『中世都市研究』第2号)
- (23) 吉岡 康暢 1994 「中世須恵器の研究」
- (24) 水藤 真 1994 「絵画・木札・石造物に中世を読む」
- (25) 小松 茂美 1994 「鶴鬼草紙 地獄草紙 病草紙 九相詩絵巻」 日本の絵巻7
- (26) 横田賛次郎 1995 「太宰府陶磁研究」
森田 勉
- (27) 三浦 謙一 1995 「柳之御所跡」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228集
松本 建速 (財)岩手県文化振興事業団 埋蔵文化財センター
- (28) 小間 真司 1995 「龜ヶ崎城跡第3次発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財センター調査報告書第28集 財団法人山形県埋蔵文化財センター
- (29) 北陸中世土器研究会 1996 「筋る・遊ぶ・祈るの木製用具」 第9回北陸土器研究会

全国の主な筐塔婆出土遺跡表について

- (1) 表7は、主に「木簡研究」の1~3、5~17号より抜粋したもので、1979年以降筐塔婆が出土した遺跡を掲載した。
- (2) 北から順番に掲載しているが、これは表-6各地出土筐塔婆時期分布表と同じ順番である。

(3) 筐塔婆に相当する遺物の遺物名は報告されている名称を記載した。

- (4) 遺物の計測値・墨書きについては、なるべく完形に近く墨書きの残りの良い遺物を一つ取り上げ記載した。計測値の単位はmmである。なお、計測値と墨書きの記号等は「木簡研究」の凡例にならつた。

表-7 全国各地の主な筐塔婆出土遺跡(1)

都道府県名	市町村名	遺跡名	調査年	遺跡の種類	出土遺構	遺物名	点数	長さ	幅	厚さ	墨書き	時期
青森	津軽郡浪岡町	浪岡城跡	1984~1985	中世城館跡	堀跡	柵縄	1	488	58	2.5	「(梵字)」	15C後半~16C末
岩手	西磐井郡平泉町	柳之御所跡	1988~1993	政庁跡	溝跡・井戸跡	筐塔婆	20件	160	20	3	「南無大日□」他	12C
宮城	宮城郡松島町	瑞巖寺境内	1992~1993	寺院跡	池跡	塔婆	154 (332)	26	4	「南無大日如来」他	15C後半	
福島	耶麻郡山都町	御前清水	1984	遺物散布地	試掘のため不明	墨書き製品	2 (20)	18	3	「南無阿弥陀仏」他	12C後半	
福島	郡上市	南A	1992~1993	廻跡か	南虎口	筐塔婆	100	170	10	1	「六日如来」他	15~16C
栃木	足利市	法界寺跡	1984	寺院跡	園地跡	柵縄	2000 (176)	8	2	「南無阿弥陀仏」他	13C	
群馬	新田郡尾島町	世良田禦防下	1991~1993	集落・墓・生產跡	溝跡	木簡	439 (265)	33	3	「南無大日如来」他	14C前半	
神奈川	鎌倉市	千葉東	1984	集落跡・中世居館跡	河川跡(木組護岸 に転用)	草塔婆	1	605	104	16	×(梵字)「紀未年 為父也」	中世
静岡	浜名郡可美村	城山	1977	不明(伊場と一連か)	記述なし	柵縄	2 (155)	19	1	1	「六日如来」他	中世
静岡	静岡市	神明原・元宮川	1983	祭祀跡、集落跡	河川跡	木簡	1	220	22.5	2.5	「南無阿弥陀□×」	9~14C
静岡	静岡市	神明原・元宮川	1985	祭祀・集落・河川	日大谷川	草塔婆	6	227	22	3.5	「南無大日□」他	12C~中世
静岡	清水市	長崎	1988~1989	集落跡・水田跡・中世河岸跡	河道内	塔婆	6	252	21	2	「南無五大力菩薩○」他	12C末~13C初

表-7 全国各地の主な塔婆出土遺跡(2)

都道府県名	市町村名	遺跡名	調査年	遺跡の種類	出土遺構	遺物名	点数	長さ	幅	厚さ	墨書き	時期
富山	中新川郡立山町 立山	集落跡	1986	溝跡	卒塔婆	8	245	18	2	「大般若心経」他	13C前半	
石川	加賀市 三木だいもん	居館跡	1985	方形池状遺構	笠塔婆	1	245	33	2	「 説法 」	13C後半	
石川	松任市 乾	墓跡か	1990	土坑	経木塔婆	1	(74)	25	12	南無大師通照×	17C前半～中葉	
福井	福井市 一乗谷朝倉氏	城館 都市跡	1983	溝跡・石積施設	卒塔婆	9	(50)	50	7	「南無上行菩薩」他	15C後半～16C後半	
福井	福井市 一乗谷朝倉氏	城館跡・城下町跡	1990	濠跡	卒塔婆	2	(82)	30	2	「 説法 」 「 梵字 」 他	16C	
愛知	西春日井郡清洲町 清洲城下町	城郭 都市跡・集落跡	1987	自然流路・溝跡	板塔婆	9	413	25	1.5	「 釋迦牟尼佛 」「 二南無阿弥陀仏 」「 口 」他	16C代	
愛知	西春日井郡清洲町 清洲城下町	集落跡・城館跡	1988	溝跡・土坑・柱棒 不明遺構	板塔婆	1	(24)	33	1	「 梵字 」 「 口 」 「 南無 」 ×	16～17C	
滋賀	野洲郡中主町 吉地乘跡堂	集落跡	1986	溝跡	卒塔婆	6	(30)	27	4	「南無地藏菩薩」他	13C	
滋賀	守山市 大宮	旧河道	1989	旧河道	五輪卒塔婆	4	(00)	(15)	15	「南無阿弥陀仏」	14C未前後	
京都	京都市 鳥羽離宮跡	離宮跡	1976～1992	溝跡・地業最下層	卒塔婆・位牌	7	141	18	2	「南無阿弥陀仏○」他	12～17C	
京都	京都市 鳥羽離宮跡	離宮跡	1987	溝跡	柿絆・塔婆	6	512	25	3	「<南無普賢菩薩○」 「<南無大日如來○」他	12C	
京都	京都市 鳥羽離宮跡	離宮跡	1989	溝跡	供養札	7	(67)	22	3	「<南無○」他	1203年	
京都	京都市 平安京右京三条二坊八町	都城跡	1986	川跡	杣状木製品・墨書き	1	650	50	60	「南無光明真言」	12C	
大阪	門真市 菩提寺	寺跡	1984	溝跡	卒塔婆	1	(20)	(47)	3	× 「 梵字 」 他	15C後半	
大阪	吹田市 五反島	河道跡・祭祀遺跡	1986	河道跡	笠塔婆・柿絆	4	(28)	26	3	× 「 梵字 」 為鋪子淨心淨榮 「 梵字 」 四年供養○ 他	14～16C	
大阪	大阪市 大阪城跡(2)	近世城下町	1987	大規模な \exists 穴	柿絆・呪符	4	(78)	23	0.5	× 阿彌陀仏○ 他	17C前半	
大阪	大阪市 東大阪市	客坊山遺跡群	1988	集落跡・古墳群・寺院跡・城跡	泉水	五輪形板塔婆	1	97	15	5	「 説法 」 「 仙沙石 」	中世
大阪	大阪市 東大阪市	城郭跡・寺院跡・官衙跡・集落跡	1988～1989	内堀跡	五輪形板塔婆	1	559	62	4	「 梵字 」 「 願意文 」 「 癡願主 」	16C後半	
兵庫	揖保郡太子町 鶴城山	集落跡	1992	井戸跡	刻書竹製品	1	(19)	(16)	3	「 南無大日 」 「 有 」	13C後半	
兵庫	明	不明	1980	井戸跡	五輪卒塔婆	1	680	10	5	「 省略 」 「 口 」 「 佛 」 文明六年六月廿七日孝子敬白	文明六年(1474)以降	

表-7 全国各地の主な笛塔婆出土遺跡(3)

都道府県名	市町村名	遺跡名	調査年	遺跡の種類	出土遺構	遺物名	点数	長さ	幅	厚さ	時 期
兵庫 姫路市	前東代	1983	旧河川跡	旧河道	匂符	1 (116)	20	5	「<大日真口 ・<尺迦口」	9~12C	
兵庫 明石市	藤原別所	1993~1994	集落跡	井戸跡	笛塔婆	1 (22)	23	2	「(梵字)南無×」	14C	
奈良 奈良市	興福寺旧境内	1986	寺院跡	井戸跡	笛塔婆 (五輪塔形)	数点	90	22	1 「地藏菩薩本願」 ・「南無地藏菩薩」	14~15C代	
奈良 織城郡田原本町	金剛寺	1987	中世居館・寺院・集落跡	溝跡	笛塔婆	1	1148	102	9 「(梵字)普在靈山名口」	16C後半	
奈良 奈良市	西大寺	1989	寺院跡	土坑	木簡	1	267	78	7 「南無觀世音菩薩」	近世	
奈良 奈良市	平城京左京三条三坊三坪	1992	都城跡・河道跡	旧河道	笛塔婆	69 (205)	13	10 「南無阿彌陀仏」 他	中・近世		
奈良 奈良市	元興寺		寺院跡	本堂	笛塔婆	4278	262	3	「南無阿彌陀仏」 他	中世	
和歌山 有田郡古備町	野田地区	1980	寺院跡・水田跡・集落跡	溝跡	笛塔婆(他に塔婆 有)	数百	(172)	10	1 「南無阿彌陀仏」 他	14C前後	
鳥取 鳥取市	天神山	1989	城郭跡	内堀跡	塔婆	1 (160)	25	7 (梵字)「北」		16C	
島根 浜田市	古市	1993~1994	集落跡	溝跡	匂符・卒塔婆	1 (460)	55	5 「□釋迦如來為念聖口」 「八万四千本內」	15~16C		
岡山 邑久郡邑久町	助三畠	1982	集落跡	溝跡	五輪卒塔婆	2	124	77	7 「釋迦如來×他」	15C前半	
広島 福山市	草戸千軒町	1969~1972	集落跡	井戸跡	板塔婆	2	441	37	6 「釋迦如來 南無阿彌陀仏」 他	14C	
広島 福山市	草戸千軒町	1979	集落跡	溝跡	柿絆	1 (45)	13	1	「南無阿彌陀仏」	14~16C	
広島 福山市	草戸千軒町	1979	集落跡	井戸跡	塔婆	1 (25)	20	2 「釋迦如來口南無六道」 「金剛力士口×」	15C		
広島 福山市	草戸千軒町	1982~1983	集落跡	川跡・井戸跡	五輪塔形板塔婆	2 (282)	20	45 「釋迦如來口南無六道」 「他」	14~16C		
広島 福山市	草戸千軒町	1984	集落跡	池跡	墓標・板塔婆	5 (11)	49	5 「釋迦如來口南無六道」 「他」	15C		
広島 福山市	草戸千軒町	1985~1987	集落跡	河川跡・土坑	笛塔婆・塔婆・板 塔婆	3	206	20	2 「釋迦如來」 「他」	14~15C	
山口 山口市	初瀬	1993	寺院跡	溝跡	笛塔婆(五輪塔形)	16	162	13	0.9 「梵字多數」 「他」	15C以降	
福岡 筑紫郡太宰府町	太宰府学寮院跡東辺部	1981	学校跡	溝	墨書き木札	1	210	14	4 「南無大般若心經」	10C~中世	
佐賀 神埼郡神埼町	城原三木谷南	1990	河川または沼地(池か)跡	落ち込み	卒塔婆	120	135	20	9.5 「<南無阿彌陀仏」 他」	11~12C	